

歴史探訪

クラブ! 其の162

History Inquiry Club

文化生涯学習課 ☎ 23局3635
FAX 22局3811

糟谷磯丸「日の出松」 歌碑の由来

糟谷磯丸は明和元年（1764）に伊良湖で生まれた漁夫歌人です。生涯に多くの歌を詠みました。中でも磯丸が得意とした「まじない歌」は、当時の人々の願いや困りごとなどを心を込めて歌にしたものです。磯丸に歌を詠んでもらい、その歌を石碑として、掛軸にして床の間に掛けたりしておくと、不思議とその願いがかなったということ（平成26年10月1日号の特集記事をご覧ください。）

田原市内をはじめ県内外には、磯



●百々日の出松歌碑

丸のまじない歌をはじめとする歌碑が、現在37カ所も確認されています。

今回、ご紹介するのは、

六連町百々神社の東側にある磯丸の「日の出松歌碑」です。ここには、かつて樹齢400年以上を誇る「日の出松」という名木があり、大正6年（1917）に暴風で倒れるまでは、その神々しさから地元をはじめ、ここを訪れる多くの人々から神聖なる木として崇められていました。

日の出松が神木たる理由は、慶長20年（1615）の大坂夏の陣に際し、豊臣秀頼方が従軍していた清水盛政（もりまさ）が大坂落城とともに家康方から逃れ、一族を率いて田原の表浜海岸に漂着したときに始まります。盛政は、そこにある松の木の下で休憩していました。その松は、朝日が幹の中心を通り光って見える木でした。盛政がそこで眠ると、不思議な夢を見たため、

●あり日の出松の姿 / 根元に磯丸「日の出松」歌碑がある



この地に永住することを決心したそうです。以後、この松は「日の出松」と名付けられ、清水家はこの地で何世代にもわたり

繁栄を続けました。村人たちも日の出松を地の神として、毎年お祭りを行うようになりました。

この松には、田原藩主三宅康高（四代）のほか、全国各地から多くの歌人が訪れて、松を賛美する詩歌を寄せています。特に、糟谷磯丸が詠んだ「ひとよとく のき端のつゆに たりそひて まつこのまの とき のさやけさ」という歌が歌碑となって、「日の出松」があった清水邸跡に建てられています。（磯丸が83歳で在世中の弘化3年「1864」建立）

この歌は、磯丸が得意としたまじない歌ではありません。遊戯歌（折込歌）という言葉遊びに近い感覚で詠んだもので、「ひのでまつ」の五文字を歌の頭に詠み込んで作られ、磯丸の歌の

才能をうかがい知ることができるものです。

今年、糟谷磯丸生誕250年の記念の年です。渥美郷土資料館では糟谷磯丸の企画展を12月7日（日）まで開催中です。磯丸が得意としたまじない歌の世界が堪能できます。ぜひ、ご覧ください。

（天野）

「日の出松」については、たはら歴史探訪クラブ【その9「百々神社（三）日の出松」でもご紹介しています。

その1～80を掲載したたはら歴史探訪クラブ第1集は、田原市博物館・渥美郷土資料館・広報秘書課で販売（1500円）しています。

今月の「表紙」

▼今年の秋は、一気に冷え込みました。そのおかげか、滝頭公園の木々は新緑も好きですが、散ってしまいう前に、ここぞとばかりに見せてくれる見事な赤色や黄色もいいですね。流れる水のように、季節は移り変わります。流れに身を任せ、その時々をの句を楽しみたいと思います。（M）

【表紙の写真】滝頭公園不動橋のせせらぎと紅葉